

令和二年度 春季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「春」

期間 令和二年二月一日～令和二年四月末

投句数 一、八七二句

特選三句

天

切り通しぬけて七里ヶ浜は春

神奈川県鎌倉市 金井 千恵子

地

紅梅の薄日差すとき華やげる

神奈川県横浜市 田阪 武夫

人

どの道を来るも紅白梅の古都

神奈川県横浜市 金子 きよ

入選句

一般の部

禅の庭石の凹みに蝌蚪の国

東京都武蔵野市

池田 章子

白に影あるもさだめや白木蓮

神奈川県平塚市

石川 潔

花冷えの極楽寺坂古りにけり

神奈川県横浜市

石塚 和矢

江ノ電の灯の過ぎ行きぬ春の闇

神奈川県鎌倉市

内堀 敬介

桜舞う風にほころぶ母の顔

神奈川県横浜市

荻野 栄美

柏手を高く響かせ受験の子

東京都大田区

荻野 操子

冬空の青を切りとる雪の富士

神奈川県鎌倉市

小野寺 信雄

春霞淡く見ゆるは江の島か

富山県富山市

川合 剛

川底に煌めく波紋春立ちぬ

神奈川県横浜市

岸本 隆雄

手を合す見に風光る慈悲観音

神奈川県横浜市

木村 清子

落椿俳句ポストの屋根の上

神奈川県鎌倉市

小林 貞夫

洞窟の弁財天やあたたかし

埼玉県川口市

櫻井 義男

春近し鳥獸戯画のそはそはと

神奈川県横浜市

篠原 広子

梅の香や北鎌倉の駅に立ち

埼玉県越谷市

田口 紅子

天神の梅が香攫ふ谷戸嵐

東京都町田市

竹内 弘

梅ひらく柏手絶えぬ天神社

神奈川県鎌倉市

中島 容子

梅の香に誘はれてきし雨の長谷

千葉県松戸市

原 美香子

桜咲く世のざわめきを知らぬごと

神奈川県横浜市

藤田 康子

青天の梅の蕾の満を持す

東京都杉並区

宮本 昌子

立子忌の波と風来て由比ヶ浜

神奈川県横浜市

山下 省三

(順不同)

入選句

子どもの部

かまくらでみんなでたべたしらすどん

東京都文京区

藤田 正恵

うめのはないろあざやかにさきほこる

東京都文京区

村井 利緒

冬空に百本鳥居あかあかや

東京都文京区

矢作 薫子

だいぶつはしずかにさくらながめてる

兵庫県高砂市

池上 梨央

歩く道はじっこにさくふきのとう

神奈川県横浜市

伊藤 光祐

ひなだんをおりがみおって作ったよ

東京都杉並区

岩瀬 鈴乃

ひなたぼこうとうとしてるだい仏さん

神奈川県横浜市

川嶋 李佳

満開の桜と友のわらい顔

茨城県古河市

関 京花

菜の花がさくらのよこにさいている

東京都豊島区

田中 菜穂子

梅の花蝶とたわむれ空に舞う

千葉県市原市

細谷 真白

(順不同)